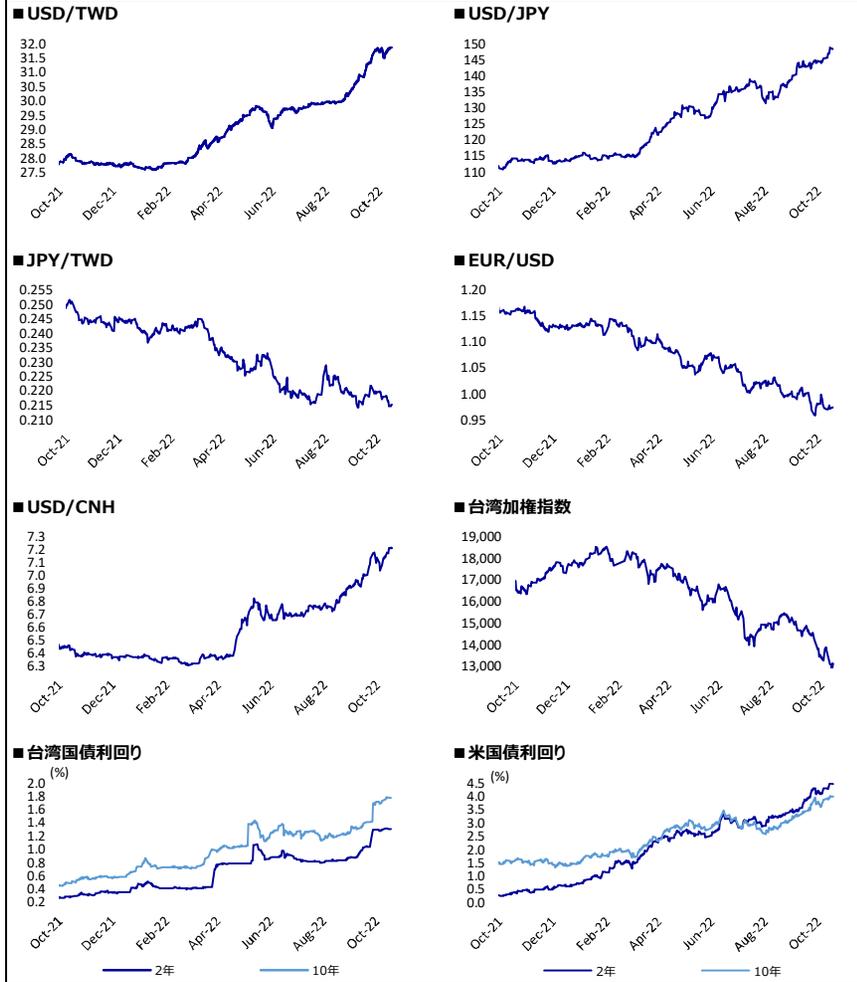


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。連休明けの週初10/11は31.740でオープン後、前週の雇用統計を受けた金融引き締め警戒感から台湾株が下落するとドル買いが優勢となり、31.800を上抜け、一時31.900手前まで上昇した。10/12も外資の流出は変わらず、ドルが買われ31.9台に乗せたものの、輸出企業等からのドル売りが入り、じりじりと下落し、31.83付近まで下落。10/13は台湾権指数が13,000ポイントを割り込み、2020年11月以来の水準で推移する中、31.900ちよどを挟んでもみ合う展開に。10/14には一時31.910まで上昇したものの、前日に米株が反発したことを受けて台湾株も上昇すると31.8台後半で推移した。最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の31.884で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は502.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇し、32年ぶりの円安水準に。週初10/10は145.38でオープン後、東京・NYが休日で取引は少ないものの、前週末に発表された米雇用統計の結果を受けたドル買いが続き、145円台後半まで上昇。10/11は米10年債の利回りが一時4%台に乗せる動きを横目に145円台後半で推移するも、先月の為替介入時のレベル前では伸び悩み、レンジで推移。10/12は前月の円買い介入前の高値145.90を上抜けると146円台に乗せ、その後もじりじりと上昇し、146円台後半まで上昇。9月のFOMC議事録が発表されると新たな手掛かりはなく、高値圏での推移が続いた。10/13は米CPIの発表を控え様子見ムードが続いたが、米9月CPIが前年比+8.2%と市場予想を上回り、コアについては約40年ぶりの伸びとなったことからドル円は一時147.66まで上昇し、1998年の高値147.64を抜けたが、利益確定の動きや為替介入への警戒感から146円台半ばまで下落と荒い値動きに。その後は147円ちよどを挟んで売り買いはが交錯し、レンジで推移。10/14は特段材料ない中、前日の高値を上抜け147円台後半まで上昇し、米金利の上昇もあり、148円台に乗せた。さらに米10月ミシガン大消費者信頼感指数が予想を上回ったことも買い材料となり、一時148.86まで上昇。最終的に先週比2.3%ドル高円安の148.79で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.800-32.200
先週は台湾株が反発する場面もあり31台を維持したものの、引き続き、海外への資金流出圧力は強く、今週は32台を試す展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：146.00-150.00
先週は米CPIの発表以降、ドル高が進んでいる。1998年の高値を上抜けたことで、次の節目150円が見えてきているが、為替介入への警戒感も強く、引き続き日米金利差を意識して底堅く推移すると見込む。

今週の予定

10/17 (MON)	米10月ニューヨーク連銀製造業景況指数
10/18 (TUE)	米9月鉱工業生産
10/19 (WED)	米9月住宅着工・許可件数
10/20 (THU)	台湾9月輸出受注、米9月中古住宅販売件数
10/21 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。